エコアクション２１

環境経営レポート

【　2024年度版　】

運用期間：2024年4月～2025年3月

®環境省
エコアクション21
認証番号0003862

イシバシテクノ株式会社

2025年　6月 20日　発行

経営理念・経営ビジョン

「経営理念」

○深絞り技術を核とした高度な成形加工技術とサービスを提供し社会に貢献する。
○人間尊重を基本として全ての人の幸せを追求する。

「経営ビジョン」

Ⅰ　事業領域（ドメイン）

・トータルな成型技術で、時代の変化に限りなく挑戦する。
・新素材、新製品開発、新分野進出により更なる成長を続ける。

Ⅱ人材育成

・未来への目標、それを実現するための人材育成を行う。

Ⅲ　法令順守（コンプライアンス）

・すべての事業活動において、法令、社会規範、倫理、道徳の遵守を最優先する。

Ⅳ地域社会への貢献

・地域社会の習慣や文化を尊重し、地域の発展に貢献する。

Ⅴ環境保全

・地球環境保全が人類共通の課題である事を認識し、その事業活動において
　地球環境に配慮して行動する。（エコアクション21）

Ⅵ　顧客満足（CS）

・品質を第一に考え、常にお客様の満足を得る製品とサービスを提供する。

イシバシテクノ株式会社

代表取締役　　原田　正

経営戦略・経営計画

「経営戦略」

Ⅰ　特装車両部品を始め、産業機器、住設等バランスのとれた売上高の確保に努める。

Ⅱ　適正収益の確保を図るとともに、キャッシュフロー経営に重点を置く。

Ⅲ　製造Gr（生産体制の充実を図り、優れた製品づくりを目指す）
・現場改善力の強化
・老朽設備の順次メンテ、更新

Ⅳ　品質管理Gr（品質の更なる向上を目指す）
・品質管理体制の充実

Ⅴ　企画開発Gr創設
・金型設計開発体制の強化
・自社ブランド製品の開発

「経営計画」

（戦略項目）Ⅰ　売上高

Ⅱ　経常利益

Ⅲ　経常利益率

Ⅳ　営業キャッシュフロー

Ⅴ　一人当たり売上高

Ⅵ　労働生産性

Ⅶ　労働分配率

Ⅷ　新規開拓部門

Ⅸ　改善提案制度

イシバシテクノ株式会社

代表取締役　　原田　正

2024年度 課題とチャンス

【経営における課題(事業上の弱み、問題点等)】

（事業者の内部に起因するもの）
- 事業基盤の強化並びに再編
- 生産性向上
- 「強み！！」の情報発信力
- 大型設備の老朽化
- 人員減少

（事業者の外部に起因するもの）
- 産業構造の変化 （自動車・家電、他）
- 世界経済の不安定化 （米/中・日/韓・EU）
- 大規模災害による影響 （受注減、原材料入手、物流）

【経営におけるチャンス(事業上の強み、有利な点等)】

（事業者の内部に起因するもの）
- 新市場の発掘
- 同業他社との差別化
- 社員の意識向上
- 省力化、不良品の削減
- M＆Aの業績効果

（事業者の外部に起因するもの）
- 労働環境の見直し並び管理体制の再構築
- シニア世代の活用拡大 （知識・技術）
- 海外からの部品回帰
- 脱プラによる樹脂から金属、アルミへの転換
- BCPによる大手企業の拠点進出 （九州＆西日本）

《 環境経営方針 》

【基本理念】

私達（イシバシテクノ株式会社 ）は、地球環境保全が人類共通の課題であることを認識し、その事業活動において地球環境に配慮して行動します。

【行動指針】

1. エコアクション21環境経営システムを構築・運用し以下の事項を推進します。

（1）省エネ（電気、燃料）による
　　二酸化炭素排出量の削減
（2）廃棄物の適正処理及び削減
（3）水使用量の削減
（4）エコドライブの実践

2. 環境関連法令等を遵守します。

3. 環境保全関係の行政機関・団体などの環境保全施策に協力をすると共に、地域社会における環境保全活動に積極的に参画し、社会貢献活動を推進します。

4. 環境経営レポートを作成し、環境取組の状況を公表します。

制定日　2009年　10月 1日
改訂日　2019年　　4月 1日

イシバシテクノ株式会社
代表取締役　原田　正

1　事業の概要

事業所名　　イシバシテクノ株式会社

代表者　　代表取締役　　原田　正

所在地　　本社・工場　〒822-0011　福岡県直方市中泉９１５

環境管理責任者　　取締役製造部長　　中尾　久彦

連絡担当者　　取締役製造部長　　中尾　久彦

連絡先　　TEL　0949-22-1400
　　FAX　0949-22-1410

E-mail　　「h.nakao@ishibashitechno.co.jp」

2　事業内容

大型プレス機械による成形加工及び組付
ステンレス・スチール・アルミ深絞り成形加工
金型設計製作

3　事業の規模

	単位	2022年度	2023年度	2024年度
売上高（該当年度）	百万円	517	566	595
主要製品生産量	t	979	969	951
従業員数	人	23	26	25
事業所床面積	㎡	4838	4838	4838

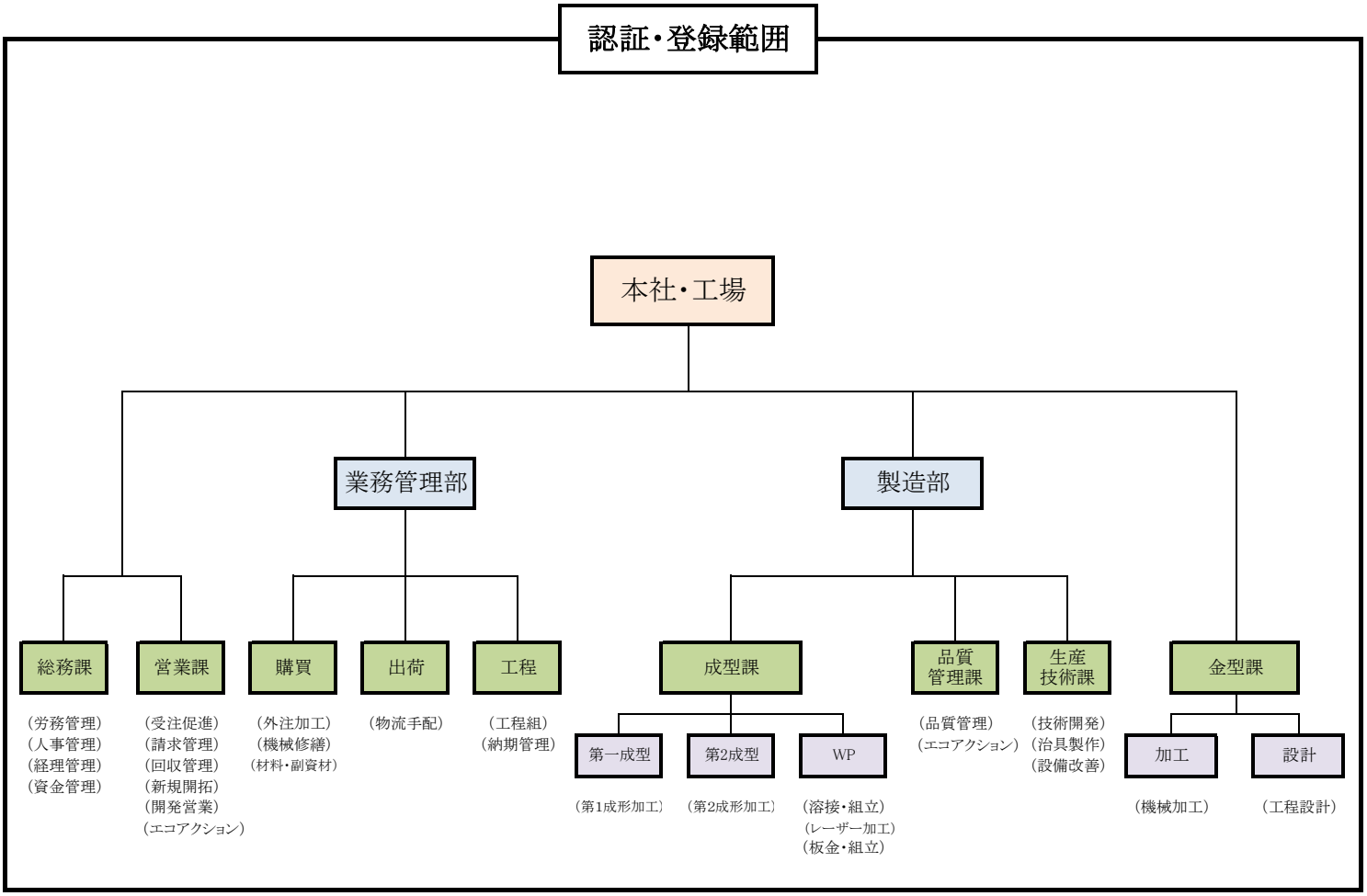
＊上記記載内容は、活動期間と同調した記載とする。

事業年度　　6月～翌年5月

活動年度　　該当年度：4月～翌年3月

認証登録範囲　本社・工場（全組織・全活動）

2. 組織図及び認証・登録範囲（認証・登録範囲は以下のとおり）



EA21　役割分担表

代表者	全体統括者としての環境方針の設定
	環境取組み実施のための資源の準備
環境管理責任者	環境取組み実施のための資源の準備・技術開発導入の提案
	EA21委員会の主催
	環境経営システムの評価と見直し
EA21委員会	環境目標の達成状況及び活動計画の実行状況の審議
	環境目標の設定
	活動計画の審議
業務管理部・部長	業務部門推進項目の達成状況の把握と推進
	活動計画の策定
	推進項目の実施と管理
製造部・部長	生産部推進項目の達成状況の把握と管理
	活動計画の策定
製造部・次長	推進項目の実施と管理
総務課・次長	電力、水使用量、コピー枚数の実績把握と管理
	推進項目の実施と管理
	法規管連の情報収集と遵守状況のチェック
事務局	環境目標、活動計画、推進項目の達成状況のまとめ
	油、灯油、廃棄物の実績把握と管理

３．１　当年度及び中期　環境経営目標（2022年度～2024年度）

環境経営目標			単位	基準年度 基準値	2022年度 （4月～翌年3月） 目標	2023年度 （4月～翌年3月） 目標	2024年度 （4月～翌年3月） 目標
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2/t（生産重量） （原単位）	282 （2016～19年平均）	265 （6%削減）	259 （8%削減）	254 （10%削減）
2	廃棄物総排出量の削減		kg/t（生産重量） （原単位）	10.9 （2015～16年平均）	9.6 （12%減）	9.4 （14%減）	9.2 （16%減）
3	水使用量の削減		㎥/t（生産重量） （原単位）	0.64 （2015～16年平均）	0.56 （12%減）	0.55 （14%減）	0.54 （16%減）
4	省エネルギーの推進	省エネ車への切り替え	省エネ車 （燃費基準達成車）	保有率：60% （2015～16年平均）	1台以上/年 （切替台数） （事業部目標）	1台以上/年 （切替台数） （事業部目標）	1台以上/年 （切替台数） （事業部目標）
5	製品・サービスに関する事項	製品不具合発生の低減	工程内不具合発生率 （不良/製品生産数）	不具合発生率：0.534 （2020年実績）	0.513 （事業部目標：4%減）	0.502 （事業部目標：6%減）	0.491 （事業部目標：8%減）
		生産性向上（総稼働率）	主体作業稼働率 （生産稼働率）	70%以上 （主体作業）	70%以上 （事業部目標）	70%以上 （事業部目標）	70%以上 （事業部目標）
		社外クレームの低減	発生件数 （社外クレーム）	7件/年 （品質不具合件数） （2020～21年平均）	6.0以下 （事業部目標）	6.0以下 （事業部目標）	6.0以下 （事業部目標）
6	事業部活性化の推進	改善提案活動の推進	提案検数 （提案検数/対象人員）	1件/月・人 （平均実績0.73件） （2015～16年平均）	1件以上/月・人 （事業部目標）	1件以上/月・人 （事業部目標）	1件以上/月・人 （事業部目標）
		工場内外の整備推進	実施件数 （5S展開・整備）	4件/年 （1件/四半期）	4件以上/年 （事業部目標）	4件以上/年 （事業部目標）	4件以上/年 （事業部目標）

※平成27年度実績（H28.12.27公表）電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.528（kg－CO2/kWh）九州電力（株）　（調整後排出係数）
※平成27年度実績（H28.12.27公表）電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.410（kg－CO2/kWh）イーレックス（株）（調整後排出係数）
※中長期環境経営目標及び二酸化炭素排出係数見直し時期：2025年度

３．２ 新中期 環境経営目標（2025年度～2027年度）

	環境経営目標		単位	基準年度 基準値	2025年度 （4月～翌年3月） 目標	2026年度 （4月～翌年3月） 目標	2027年度 （4月～翌年3月） 目標
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2/t（生産重量） （原単位）	240 （2024年度実績）	235 （2%削減）	231 （4%削減）	226 （6%削減）
2	廃棄物総排出量の削減		kg/t（生産重量） （原単位）	10.6 （2022～24年平均）	10.4 （2%削減）	10.2 （4%削減）	10.0 （6%削減）
3	水使用量の削減		㎥/t（生産重量） （原単位）	0.51 （2022～24年平均）	0.5 （2%削減）	0.49 （4%削減）	0.48 （6%削減）
4	省エネルギーの推進	省エネ車への切り替え	省エネ車 （燃費基準達成車）	保有率：60% （事業部目標）	1台以上/年 （切替台数） （事業部目標）	1台以上/年 （切替台数） （事業部目標）	1台以上/年 （切替台数） （事業部目標）
5	製品・サービスに関する事項	製品不具合発生の低減	工程内不具合発生率 （不良/製品生産数）	不具合発生率：0.547 （2022～24年平均）	0.536 （事業部目標：4%減）	0.525 （事業部目標：6%減）	0.514 （事業部目標：8%減）
		生産性向上（総稼働率）	主体作業稼働率 （生産稼働率）	70%以上 （主体作業）	70%以上 （事業部目標）	70%以上 （事業部目標）	70%以上 （事業部目標）
		社外クレームの低減	発生件数 （社外クレーム）	10件/年 （品質不具合件数） （2022～24年平均）	9.0以下 （事業部目標）	9.0以下 （事業部目標）	9.0以下 （事業部目標）
6	事業部活性化の推進	改善提案活動の推進	提案検数 （提案検数/対象人員）	1件/月・人 （事業部目標）	1件以上/月・人 （事業部目標）	1件以上/月・人 （事業部目標）	1件以上/月・人 （事業部目標）
		工場内外の整備推進	実施件数 （5S展開・整備）	4件/年 （1件/四半期）	4件以上/年 （事業部目標）	4件以上/年 （事業部目標）	4件以上/年 （事業部目標）

※令和5年度実績（R7.3.18公表）電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.417（kg－CO2/kWh） 九州電力（株） （調整後排出係数）
※令和5年度実績（R7.3.18公表）電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.395（kg－CO2/kWh） エバーグリーン・マーケティング（株）（調整後排出係数）
※中長期環境経営目標及び二酸化炭素排出係数見直し時期：2028年度

4. 当年度の主要な環境経営活動計画

「2024年度環境経営活動推進計画」

1. 二酸化炭素総排出量の10%削減

1	電力使用量の削減	①	空調機温度設定管理の推進
		②	空調機器の定期的清掃（フイルター）
		③	照明（天井、手元含む）の不要時の電源OFFの徹底
		④	電気機器の不使用時の、電源OFFの徹底
		⑤	コンプレッサーの稼働ロスの低減（エアー漏れ、フイルター清掃）
2	灯油使用量の削減	①	暖房温度の適正管理（作業場、休憩所）
		②	長時間作業場を離れるときは火を必ず消す（ストーブ）
3	ガソリン使用量の削減	①	フォークリフト搬送走行速度の遵守
		②	フォークリフト空荷走行の減少
		③	アイドリングストップの励行（フォークリフト）
		④	搬送作業の効率的な推進（一時保管など）
		⑤	省エネドライブの励行（社用車）
4	軽油使用量の削減	①	積載効率の遵守（移送＝混載出荷）
		②	省エネドライブの励行
5	液化石油ガス（LPG）使用量の削減	①	給湯器等の効率使用
		②	手洗い時の効率使用

2. 廃棄物総排出量の16%削減

1	不良品の削減	①	加工工程手順改善等による、不具合の低減
		②	プレス方法（調整）金型修正の変更による不具合の低減
2	廃棄物排出量の削減	①	木製パレットのリサイクルの推進
		②	廃材のリサイクル実施（端材）
		③	製品包装の外装箱の回収（リサイクル）
		④	加工材料の最適化の推進（端材の排出減量）

3. 水使用量の16%削減

1	節水活動	①	手洗い時の節水実施（手洗い手順の遵守）
		②	製品洗浄作業での節水

4. 省エネルギーの推進

1	エコドライブの実践	①	通勤時及び敷地内でのエコドライブ運転の実行
		②	出入りの運送業者へのエコドライブの推奨
2	省エネ車への切り替え	①	車の乗換時に燃費基準達成車両への切り替え

5. 製品・サービスに関する事項

1	部品品質の向上	①	不具合の低減（歩留まりの向上）
2	生産性向上（総稼働率）	①	プレス加工作業の生産性の向上（主体作業）
		②	付随作業の効率的な作業の実施（搬送作業、段取り）
3	社外指摘件数の低減	①	社外指摘発生件数の低減

6. 事業部活性化の推進

1	改善案実施活性化の推進	①	改善案実施件数の推進
2	工場内外の整備推進	①	不要品の除去及び配置換えによる作業環境の改善
		②	設備メンテナンス実施による稼働ロスの低減

5. 目標の実績

＊2024年4月～2025年3月までの期間の目標に於ける実績は以下の通りであった。

	環境経営目標		単位	基準年度 基準値	2024年度 （4月～翌年3月） 目標	2024年度 （4月～翌年3月） 実績	目標の達成率	評価
	二酸化炭素総排出量		kg-CO2	341,550		280,824		
1	二酸化炭素排出量の削減		kg-CO2/t（生産重量） （原単位）	282 （2016～19年平均）	254 （10%減）	295	86%	×
	電気使用量の削減		kWh/t（生産重量）	516.3 （2016～19年平均）	464.7 （10%減）	547.1	85%	×
	灯油使用量削減		L/t（生産重量）	0.47 （2016～19年平均）	0.42 （10%減）	0.21	目標達成	○
	液化石油ガスの削減		kg/t（生産重量）	0.181 （2016～19年平均）	0.163 （10%減）	0.133	123%	○
	ガソリン使用量の削減		L/t（生産重量）	5.99 （2016～19年平均）	5.39 （10%減）	4.51	120%	○
	軽油使用量の削減		L/t（生産重量）	0.47 （2016～19年平均）	0.42 （10%減）	0.77	54%	×
2	廃棄物総排出量の削減		kg/t（生産重量） （原単位）	10.9 （2015～16年平均）	9.2 （16%減）	6.4	144%	○
3	水使用量の削減		㎥/t（生産重量） （原単位）	0.64 （2015～16年平均）	0.54 （16%減）	0.47	114%	○
	省エネルギーの推進	省エネ車への切り替え	省エネ車 （燃費基準達成車）	保有率：60% （2015～16年平均）	1台以上/年 （切替台数） （事業部目標）	2台	目標達成	○
5	製品・サービスに関する事項	製品不具合発生の低減	不具合発生率 （不良/製品生産数）	0.534 （2020年実績）	0.491 （事業部目標：8%減）	0.688	71%	×
		生産性向上（総稼働率）	主体作業稼働率 （生産稼働率）	70%以上 （主体作業）	70%以上	75.0	107%	○
		社外クレームの低減	発生件数 （社外クレーム）	7件/年 （2020～21年平均）	6.0以下 （事業部目標）	8.0	未達	×
6	事業部活性化の推進	改善提案活動の推進	提案検数 （提案検数/対象人員）	1件/月・人 （平均実績0.73件） （2015～16年平均）	1件以上/月・人 （事業部目標）	0.12	未達	×
		工場内外の整備推進	実施件数 （5S展開・整備）	4件/年 （1件/四半期）	4件以上/年 （事業部目標）	5	125%	○

＊目標達成率95%以下：×、95%～99%：△、100%～149%：○、150%以上：目標達成として記載する。

※平成27年度実績（H28.12.27公表）電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.528（kg－CO2/kWh） 九州電力（株） （調整後排出係数）

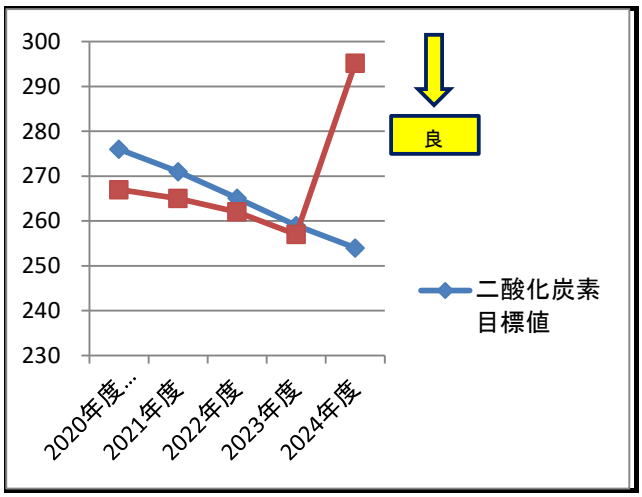
※平成27年度実績（H28.12.27公表）電気事業者別二酸化炭素排出係数：0.410（kg－CO2/kWh） イーレックス（株）（調整後排出係数）

※中長期環境経営目標及び二酸化炭素排出係数見直し時期：2025年度

5－1 環境経営目標の達成状況

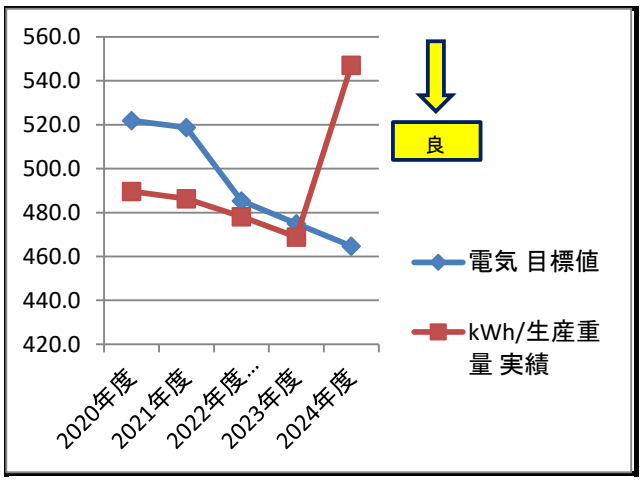
		2%(減)	4%(減)	6%(減)	8%(減)	10%(減)
項目	年度	2020年度(目標値変更)	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素	目標値	276	271	265	259	254
kg-CO2/生産重量	実績	267	265	262	257	295
評価		○	○	○	○	×
総排出量(kg-CO2)	実績	276,144	263,839	256,887	249,145	280,824

新規案件の量産開始に伴い、目標未達となったが、
日々の活動(不要電源OFF等)は定着出来ている。



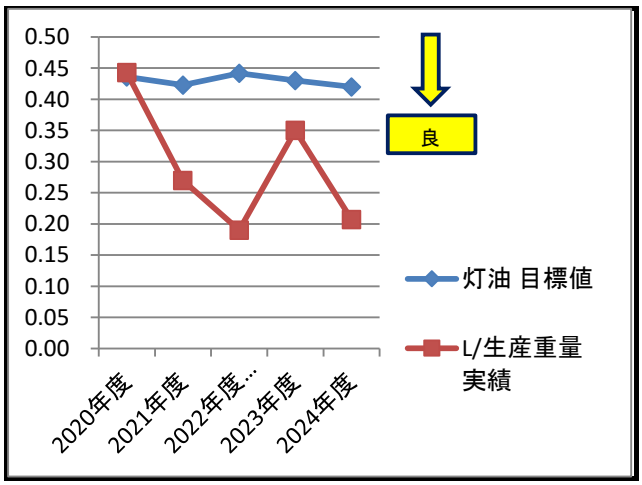
		8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)	10%(減)
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度(目標値変更)	2023年度	2024年度
電気	目標値	521.9	518.7	485.3	475.0	464.7
kWh/生産重量	実績	489.7	486.3	478.1	468.9	547.1
評価		○	○	○	○	×
使用量(kWh)	実績	505,621	483,574	468,105	454,423	520,464

二酸化炭素同様、電気使用量の大幅な増加により、目標未達となった。



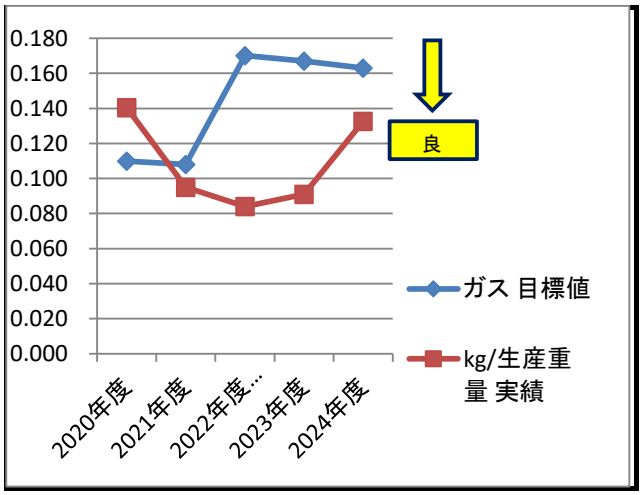
		8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)	10%(減)
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度(目標値変更)	2023年度	2024年度
灯油	目標値	0.44	0.42	0.44	0.43	0.42
L/生産重量	実績	0.44	0.27	0.19	0.35	0.21
評価		○	○	○	○	○
使用量(L)	実績	457	268	188	339	197

電気ストーブへの変更などにより、目標達成。



		8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)	10%(減)
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度(目標値変更)	2023年度	2024年度
ガス	目標値	0.110	0.108	0.170	0.167	0.163
kg/生産重量	実績	0.141	0.095	0.084	0.091	0.133
評価		×	○	○	○	○
使用量(kg)	実績	145	95	83	89	126

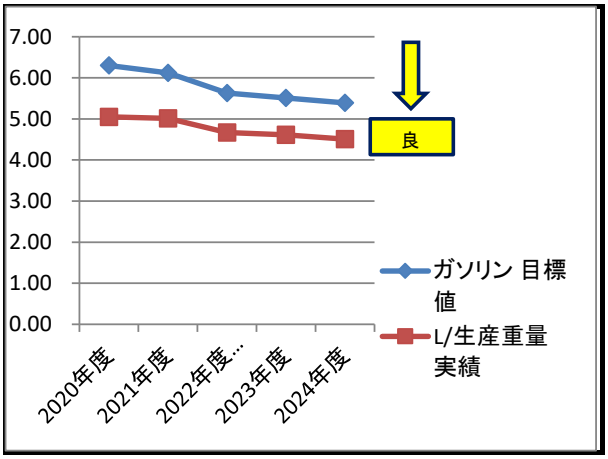
目標達成だが、洗浄作業が増えたことで、冬季の使用量が増加する結果となった。



5－2 環境経営目標の達成状況

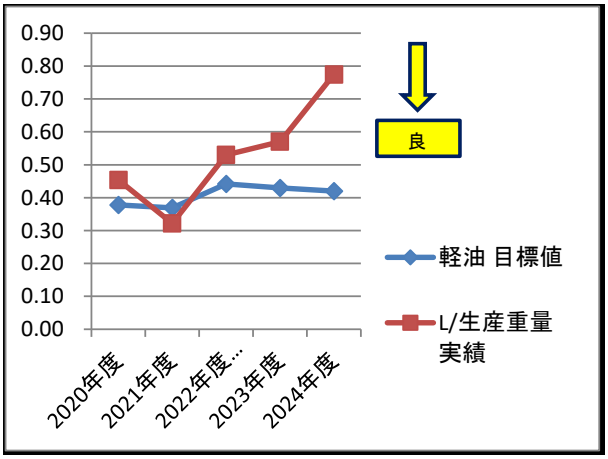
		8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)	10%(減)
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度	2024年度
ガソリン	目標値	6.30	6.12	5.63	5.51	5.39
L/生産重量	実績	5.05	5.01	4.67	4.61	4.51
評価		○	○	○	○	○
使用量(L)	実績	5,215	4,983	4,568	4,471	4,288

取り回しの削減、リフト(ガソリン車)の更新などにより、目標達成。



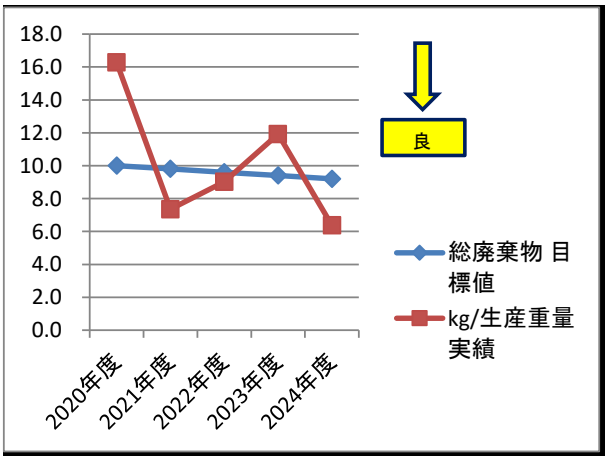
		8%(減)	10%(減)	6%(減)	8%(減)	10%(減)
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度	2024年度
軽油	目標値	0.38	0.37	0.44	0.43	0.42
L/生産重量	実績	0.45	0.32	0.53	0.57	0.77
評価		×	○	×	×	×
使用量(L)	実績	469	320	518	551	737

リフト(ガソリン車)をクリーンディーゼルリフトに更新(2台)したことにより、
使用量増加となった。



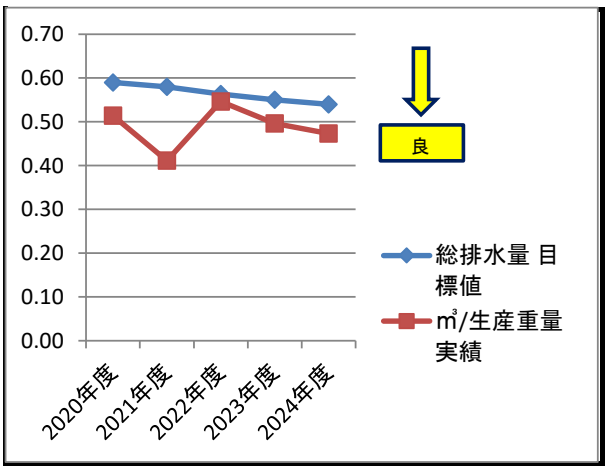
		8%(減)	10%(減)	12%(減)	14%(減)	16%(減)
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
総廃棄物	目標値	10.0	9.8	9.6	9.4	9.2
kg/生産重量	実績	16.3	7.4	9.0	11.9	6.4
評価		×	○	○	×	○
排出量(kg)	実績	14,170	7,310	8,830	11,550	6,060

前年に場内整理を行ったことで、該当年度は廃棄物を抑えることが出来た。



		8%(減)	10%(減)	12%(減)	14%(減)	16%(減)
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
総排水量	目標値	0.59	0.58	0.56	0.55	0.54
㎥/生産重量	実績	0.51	0.41	0.55	0.50	0.47
評価		○	○	○	○	○
使用量(㎥)	実績	531	409	535	481	450

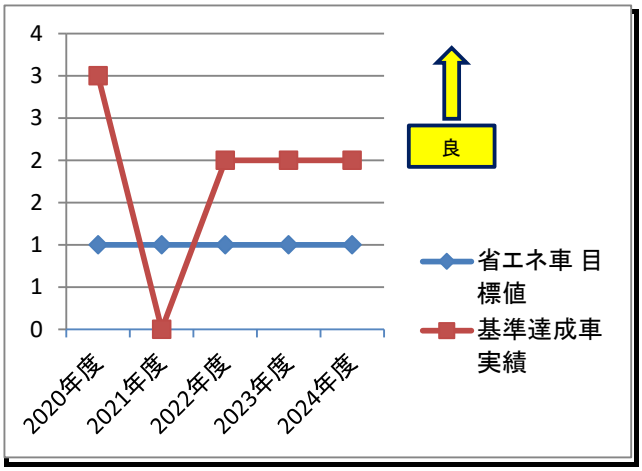
凍結による漏水はあったものの、すぐに対処できたため、
使用量を抑えることが出来た。



5－3　環境経営目標の達成状況

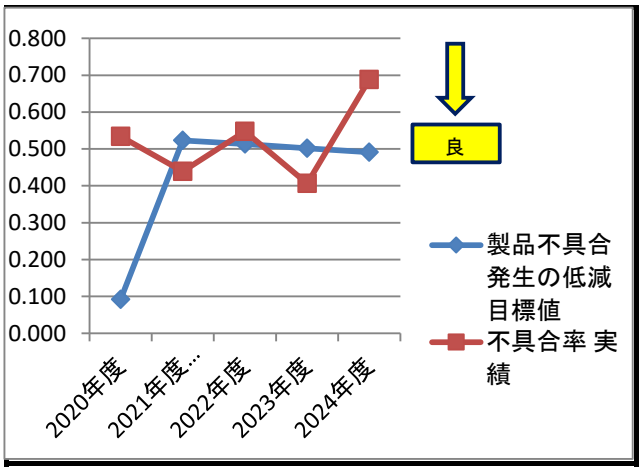
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
省エネ車	目標値	1	1	1	1	1
基準達成車	実績	3	0	2	2	2
評価		○	×	○	○	○

車の乗換えが多かったため、目標クリア。



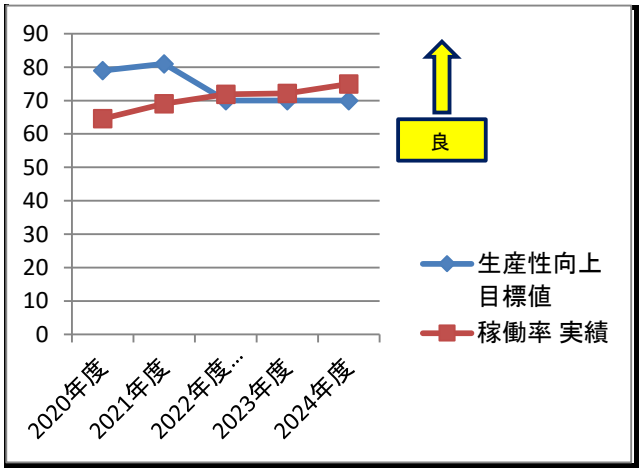
		8%(減)	2%(減)	4%(減)	6%(減)	8%(減)
項目	年度	2020年度	2021年度 (目標値変更)	2022年度	2023年度	2024年度
製品不具合発生の低減	目標値	0.092	0.523	0.513	0.502	0.491
不具合率	実績	0.534	0.439	0.548	0.406	0.688
評価		×	○	×	○	×

大量生産品で不具合が発生したことで、目標未達となった。
生産品目が小ロット・多品番化していることも要因の1つと考えらえる。



		8%(向上)	10%(向上)	－	－	－
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度 (目標値変更)	2023年度	2024年度
生産性向上	目標値	79	81	70	70	70
稼働率	実績	64.6	69.1	71.9	72.2	75.0
評価		×	×	○	○	○

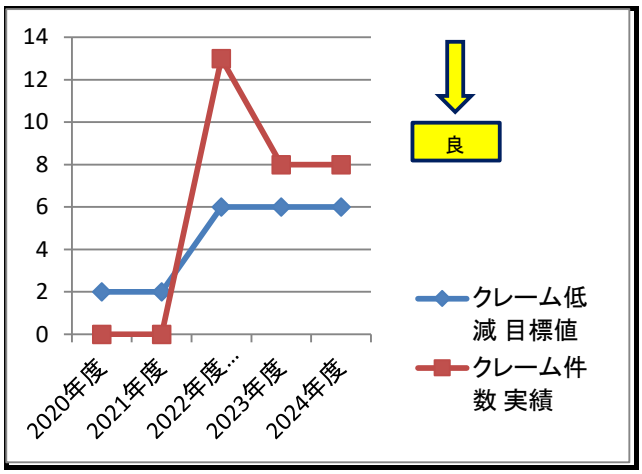
生産計画の調整、作業スペースの確保による取り回しの削減等で、
稼働率を上げることができた。



５－４ 環境経営目標の達成状況

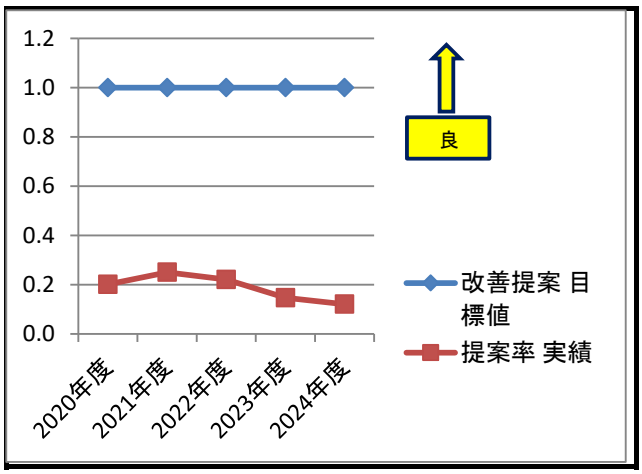
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度（目標値変更）	2023年度	2024年度
クレーム低減	目標値	2	2	6	6	6
クレーム件数	実績	0	0	13	8	8
評価		○	○	×	×	×

多工程品での不具合が多く出たことで、目標未達となった。



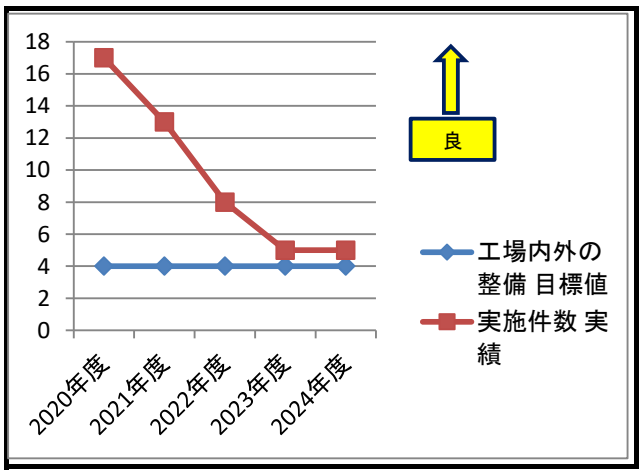
項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
改善提案	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
提案率	実績	0.20	0.25	0.22	0.15	0.12
評価		×	×	×	×	×

口頭での改善意見は上がっているものの、書面での提出には至っておらず、
減少傾向となっている。



項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
工場内外の整備	目標値	4	4	4	4	4
実施件数	実績	17	13	8	5	5
評価		○	○	○	○	○

計画的に工場内外の整備はできている。



6. 環境経営活動計画の取組結果とその評価

「2024年度環境活動推進計画」

1. 二酸化炭素総排出量の10%削減

取組目標		活動項目		取組の評価	
1	電力使用量の削減	①	空調機温度設定管理の推進	室温管理は、概ね定着して実施されている。	定着
		②	空調機器の定期的清掃（フイルター）	定期的に実施されている。	定着
		③	照明（天井、手元含む）の不要時の電源OFFの徹底	消灯行為は、定着して実施されている。	定着
		④	電気機器の不使用時の、電源OFFの徹底	不使用時の電源OFFは定着している。	定着
		⑤	コンプレッサーの稼働ロスの低減（エアー漏れ、フイルター清掃）	定期的なフィルター清掃が実施されている。	定着
2	灯油使用量の削減	①	暖房温度の適正管理（作業場、休憩所）	電気ストーブへの切替を進めており、灯油使用量は減少している	定着
		②	長時間作業場を離れるときは火を必ず消す（ストーブ）	遵守されている。	定着
3	ガソリン使用量の削減	①	フォークリフト搬送走行速度の遵守	概ね遵守されている。	定着
		②	フォークリフト空荷走行の減少	適宜の状況に応じて遵守されている。	定着
		③	アイドリングストップの励行（フォークリフト）	遵守されている。	定着
		④	搬送作業の効率的な推進（一時保管など）	適正配置により、効率的な運搬ができている。	定着
		⑤	省エネドライブの励行（社用車）	遵守されている。	定着
4	軽油使用量の削減	①	積載効率の遵守（移送＝混載出荷）	必要に応じての使用のため頻度含めて遵守されている。	定着
		②	省エネドライブの励行	遵守されている。	定着
5	液化石油ガス（LPG）使用量の削減	①	給湯器等の効率使用	適切に利用できている。	定着
		②	手洗い時の効率使用	手洗いは、定着して遵守されている。	定着

2. 廃棄物総排出量の16%削減

1	不良品の削減	①	加工工程手順改善等による、不具合の低減	不具合発生に対して適宜の対応策を実施している。	要継続
		②	プレス方法（調整）金型修正の変更による不具合の低減	対象となる事象は特に発生しなかった。	要継続
2	廃棄物排出量の削減	①	木製パレットのリサイクルの推進	製品用パレット・リンギへ転用し適切にリサイクルできている。	要継続
		②	廃材のリサイクル実施（端材）	製品用パレット補強などに利用できている。	要継続
		③	製品包装の外装箱の回収（リサイクル）	従来の外装箱のリサイクルは継続して実施されている。	要継続
		④	加工材料の最適化の推進（端材の排出減量）	対象となる事象は特に発生しなかった。	要継続

3. 水使用量の16%削減

1	節水活動	①	手洗い時の節水実施（手洗い手順の遵守）	実施されている。	定着
		②	製品洗浄作業での節水	品質に適応した使用が出来ている。	定着

4. 省エネルギーの推進

1	エコドライブの実践	①	通勤時及び敷地内でのエコドライブ運転の実行	自己啓発として実行している。	定着
		②	出入りの運送業者へのエコドライブの推奨	受付口にエコドライブの掲示を行い、周知している。	定着
2	省エネ車への切り替え	①	車の乗り換え時に燃費基準達成車両への切り替え	乗り換え時期に、優先的に検討して実施している。	定着

5. 製品・サービスに関する事項

1	部品品質の向上	①	不具合の低減（歩留まりの向上）	ワレ、シワ等の外観検査を十分に行う必要がある。	要継続
2	生産性向上（総稼働率）	①	プレス加工作業の生産性の向上（主体作業）	効率的な工程調整が行えている。	要継続
		②	付随作業の効率的な作業の実施（搬送作業、段取り）	専用金型を近接配置して運用している。	要継続
3	社外指摘件数の低減	①	社外指摘発生件数の低減	外観の軽微な指摘を減らしていく必要がある。	要改善

6. 事業部活性化の推進

1	改善案実施活性化の推進	①	改善案実施件数の推進	改善提案提出を促していく。	要改善
2	工場内外の整備推進	①	不要品の除去及び配置換えによる作業環境の改善	作業環境の改善を状況に応じて着手して実施している。	要継続
		②	設備メンテナンスナンス実施による稼働ロスの低減	設備不具合に関して適宜の対応処置を実施している。	要継続

7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

「2025年度環境経営活動推進計画」

1. 二酸化炭素総排出量の2%削減（新中期計画）

取組目標		活動項目		担当者	活動計画 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	電力使用量の削減	①	空調機温度設定管理の推進	峰松・松井	＊ 実行 →											
		②	空調機器の定期的清掃（フイルター）	田中・山口											＊清掃	
		③	照明（天井、手元含む）の不要時の電源OFFの徹底	田中・山口	＊ 実行 →											
		④	電気機器の不使用時の、電源OFFの徹底	田中・山口	＊ 実行 →											
		⑤	コンプレッサーの稼働ロスの低減（エアー漏れ、フイルター清掃）	田中・山口	＊ 日常管理推進 →					＊随時修理実施 →					＊清掃	
2	灯油使用量の削減	①	暖房温度の適正管理（作業場、休憩所）	田中・山口	＊ 実行 →											
		②	長時間作業場を離れるときは火を必ず消す（ストーブ）	田中・山口	＊ 実行 →											
3	ガソリン・軽油使用量の削減	①	フォークリフト搬送走行速度の遵守	田中・山口	＊ 実行 →											
		②	フォークリフト空荷走行の減少	田中・山口	＊ 実行 →											
		③	アイドリングストップの励行（フォークリフト）	田中・山口	＊ 実行 →											
		④	搬送作業の効率的な推進（一時保管など）	中尾・峰松	＊ 実行 →											
		⑤	省エネドライブの励行（社用車）	中尾・村上	＊ 実行 →											
		⑥	積載効率の遵守（移送＝混載出荷）	山田・中尾	＊ 実行 →											
		⑦	省エネドライブの励行	山田・中尾	＊ 実行 →											
4	液化石油ガス（LPG）使用量の削減	①	給湯器等の効率使用	村上・中尾	＊ 実行 →											
		②	手洗い時の効率使用	田中・山口	＊ 実行 →											

2. 廃棄物総排出量の2%削減

取組目標		活動項目		担当者	活動計画 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	不良品の削減	①	加工工程手順改善等による、不具合の低減	田中・山口	＊ 現状把握 →		＊ 改善案検討 →				＊ 実行 →					
		②	プレス方法（調整）金型修正の変更による不具合の低減	峰松・田中	＊ 現状把握 →		＊ 改善案検討 →				＊ 実行 →					
2	廃棄物排出量の削減	①	木製パレットのリサイクルの推進	中尾・峰松	＊ 検討 →						＊ 対象品実行					
		②	廃材のリサイクル実施（端材）	中尾・峰松	＊ 実行 →											
		③	製品包装の外装箱の回収（リサイクル）	中尾・峰松	＊ 実行 →											
		④	加工材料の最適化の推進（端材の排出減量）	田中・山口	＊ 現状把握 →		＊ 改善案検討 →				＊ 実行 →					
		⑤	不用品処分による作業場確保 （取回し不良・梱包資材の削減）	中尾・峰松	＊ 実行 →											

3. 水使用量の2%削減

取組目標		活動項目		担当者	活動計画 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	節水活動	①	手洗い時の節水実施（手洗い手順の遵守）	田中・山口	＊ 実行 →											
		②	製品洗浄作業での節水	峰松・山口	＊ 現状把握 →		＊ 検討 →				＊ 実行 →					

4. 省エネルギーの推進

取組目標		活動項目		担当者	活動計画 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	エコドライブの実践	①	通勤時及び敷地内でのエコドライブ運転の実行	中尾・峰松	＊ 実行 →											
		②	出入りの運送業者へのエコドライブの推奨	松井	＊ 実行 →											
2	省エネ車への切り替え	①	車の乗りかえ時に燃費基準達成車両への切り替え	中尾・峰松	＊ 現状把握 →		＊ 検討 →				＊ 実行 →					

5. 製品・サービスに関する事項

取組目標		活動項目		担当者	活動計画 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	部品品質の向上	①	不具合の低減（歩留まりの向上）	峰松・田中	＊ 実行 →											
2	生産性向上（総稼働率）	①	プレス加工作業の生産性の向上（主体作業）	田中・山口	＊ 現状把握 →		＊ 検討 →				＊ 実行 →					
		②	付随作業の効率的な作業の実施（搬送作業、段取り）	田中・山口	＊ 現状把握 →		＊ 検討 →				＊ 実行 →					
3	社外指摘件数の低減	①	社外指摘発生件数の低減	峰松・中尾（隼）	＊ 発生都度随時実施 →											

6. 事業部活性化の推進

取組目標		活動項目		担当者	活動計画 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	改善提案活動の推進	①	改善案実施件数の推進	中尾・峰松	＊ 実行 →											
2	工場内外の整備推進	①	不要品の除去及び配置換えによる作業環境の改善	中尾・峰松	＊ 現状把握 →		＊ 検討 →				＊ 実行 →					
		②	設備メンテナンスナンス実施による稼働ロスの低減	中尾・峰松	＊ 実行 →											

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当事業所に適用される環境関連法規とその遵守状況をチェックした結果、
違反はありませんでした。
また、関係機関等からの指摘及び外部からの苦情や訴訟もありませんでした。

【適用される環境関連法規】
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律　・公害防止組織の整備に関する法律
・騒音・振動規制法　・浄化槽法
・消防法　・フロン排出抑制法

9. 代表者による全体評価と見直し結果

中期計画の最終年度であることに加え、今回新たに取り組んだ新規物件が
本件の実績指標に対し、逆向する製品であったため、
実績としては数値が悪化する結果となっている。
今後、指標値の変更を検討する必要性を感じてはいるが、
日々の活動は定着しており、社員の環境意識の高まりを感じている。
近年、お取引先様から、環境取組に関する調査を多くいただいていることから、
エコアクション21の取組効果を社外へアピールするチャンスと捉え、
活動を継続していくこととする。

◇. その他

特に記載する事項はありません。